

世界の郵便ポスト

～ペルー編～

文・写真/宮澤一信



マチュ・ピチュの郵便局

ペルーのポストの特徴は、街中で24時間いつでも投函できるポストがほとんどなく、一般的には、切手の販売を委託しているブックストアやドラッグストアなどのお店やホテル、空港内などに設置されている。ペルーの郵政事業は、1991年に郵便事業に競争原理を導入する法律が制定され、1994年に今まで通信省が自ら行っていた郵政事業運営部門を切り離して「セルポスト(Serpost)」という100%政府保有の株式会社に改組された。セルポストは公共事業体として位置づけられている。



写真は、マチュ・ピチュのドラッグストアとブックストアのポストで、収集時刻は表記されていない。
お店が閉店するとポストも店内に入れるので、お店の営業時間のみ利用できる。



左側の写真は、フリアカ空港内に設置している郵便局、右側の写真はリマ国際空港(ホルヘ・チャベス空港)内に設置している24時間受付の郵便局。